

台風風速予測システム(RAMP-T) ※Risk Assessment and Management system for Power lifeline - Typhoon

台風接近に伴う風速を 予測・見える化で復旧活動に 役立ちます

背景・目的

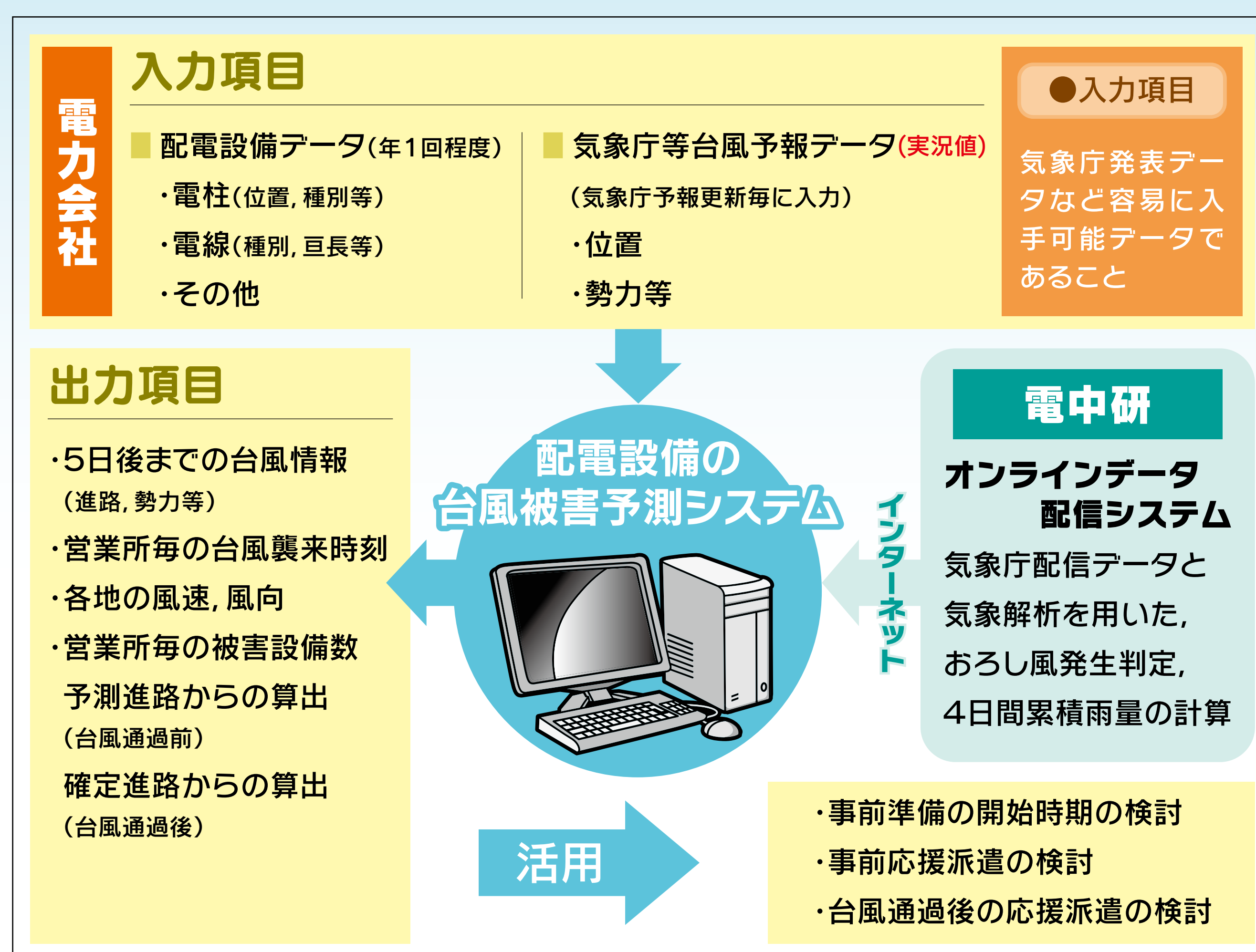
- 台風による大規模な被害が発生した場合、復旧活動においては情報が大量かつ輻輳するため、人間系での対応に限界があります。この課題を解決するため、事前、災害発生中、事後の対策ごとに、早期復旧を実現するための業務支援技術（台風風速予測システム）を活用し、効率的かつ効果的な対応が可能となります。

特長

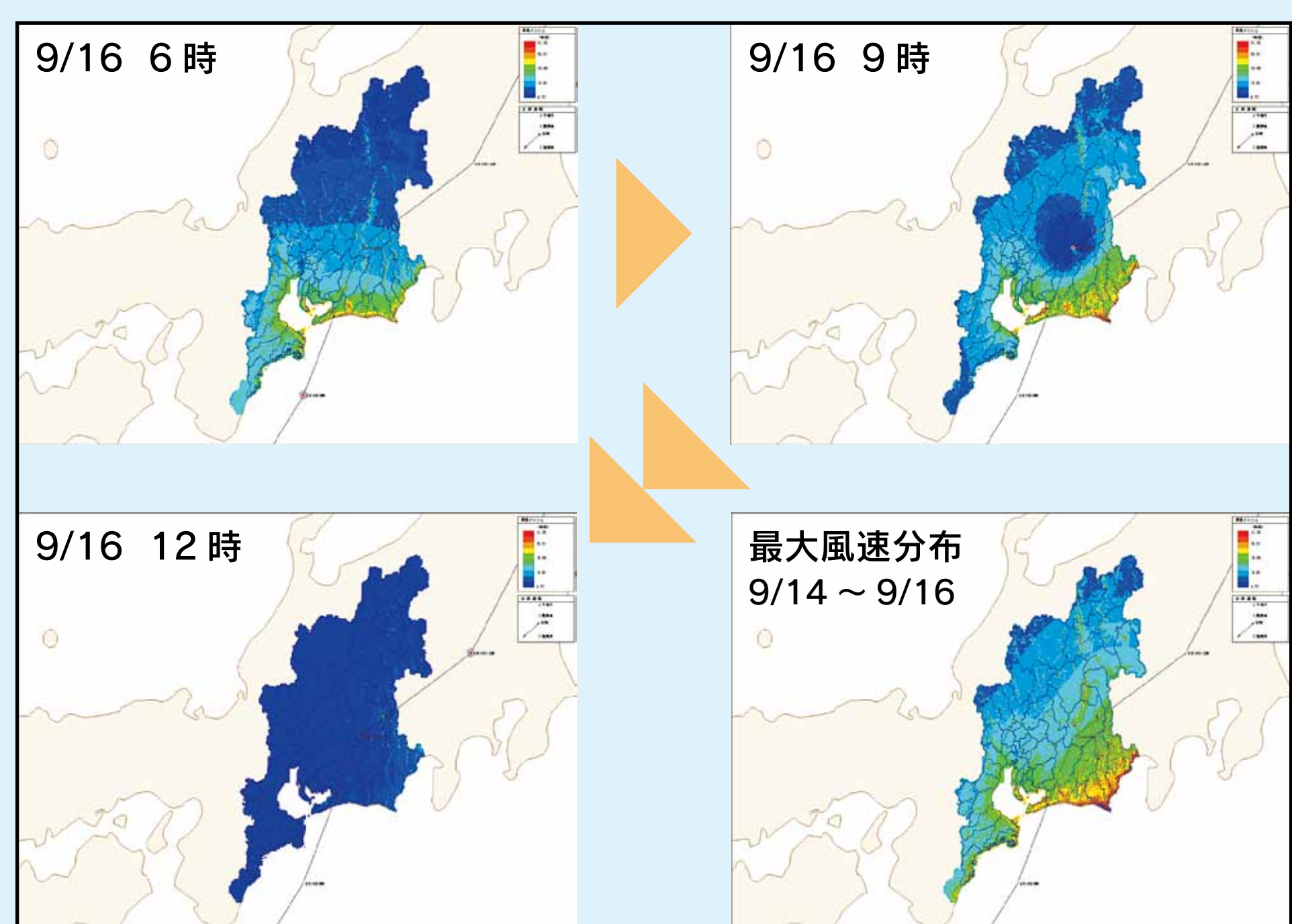
- 時々刻々と変化する台風の動きに対する風速分布状況を想定
- 任意地点における強風時間帯（突入から離脱までの時間）が推定可能
- 想定結果（風速分布状況）を地図表示して見える化を実現
- 部門のHPに掲載することで、社内パソコンにて情報を共有化

用途

- 【事前】 台風襲来前に、配電部門の要員・資機材を確認・確保する
- 【発生中】 任意地点における強風継続想定時間から、復旧開始可能時間を設定する
- 【事後】 台風規模と設備被害との相関分析や、台風による急速汚損などの原因分析などに活用する



本システムを用いた災害復旧支援イメージ



風速シミュレーション(予測結果)2013年台風18号



台風被害の事例

開発者の ひとこと

大規模災害発生時でも、少しでも早く電気をお使いいただけるように、復旧活動を支援・効率化する方法について、電力中央研究所様の知見や技術力を提供いただきました。